



本来の『学び』とは何か

— デジタル化が進む学校現場から 子どもたちの未来を考える



大阪市立木川南小学校校長

講師：久保 敬

online seminar

#19

12/11 (土)

14:00-16:00



JBBY
希望
プロジェクト
学びの会
2021年-①

1. 本来の「学び」とは何か
2. 学校がグローバル経済を支える人材育成装置化しているのではないか
3. デジタル書籍 / 教科書は子どもの想像力や創造性を奪わないか
4. そうさせないためには何が必要なのか

希望プロジェクト・学びの会 2021年-①

本来の『学び』とは何か
— デジタル化が進む学校現場から
子どもたちの未来を考える

12/11 (土)
14:00-16:00

オンライン (Zoom)

参加費：1,300円 (JBBY会員1,000円)

Peatix のサイトからお申し込みください

→ <https://jbbyonline019.peatix.com/>



講師にお迎えする、大阪市立木川南小学校校長の久保敬（くぼたかし）先生は、今年5月、「公教育はどうあるべきか真剣に考える時が来ている」という文章から始まる提言書を、大阪市の松井一郎市長宛てに提出しました。

競争主義、能力主義でカテゴライズされ、大人の経済的な目論みに利用され、コロナを追い風に急激に推し進められる教育のデジタル化 "GIGA スクール構想" に翻弄される子どもたち。

誰のための公教育なのか。子どもにとっていちばんしあわせな学びの場とはどうあるべきなのか。

久保先生のお話を伺いながら、皆さんと一緒に、一度じっくりと考えてみたいと思います。

久保 敬（くぼ・たかし）

大阪市立木川南小学校校長。

本年5月、子どもがのびのびと学べる学校をとり戻すべく、実名で大阪市長へ提言書を提出。そこで言及した学校の本来あるべき姿と、勇気ある行動に、全国が共感した。